

風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことで、近年では特に、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」の発生による大雨の影響により、全国各地に大きな被害をもたらしています。

このような自然災害から身を守るためには、様々な自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

氾濫の種類

内水氾濫

市街地などで大雨が降ると、側溝や排水路だけでは雨を流しきれなくなることがあり、溢れ出した雨水により、建物や土地・道路等が水に浸かってしまうこと。雨が降り始めてから短時間で浸水することもあるので注意が必要です。

外水氾濫

河川の堤防から水が溢れたり、堤防が決壊して、家屋や田畑等が浸水すること。外水氾濫が発生すると、大量の水が流れ込み、広い範囲で浸水し、水が引くまでに時間がかかります。

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。

■ 大きさの階級分け ■		■ 強さの階級分け ■	
大きさ	風速15m/s以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/s以上44m/s未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/s以上54m/s未満
		猛烈な	54m/s以上

避難対策

避難は避難所や避難場所への移動だけではありません。住んでいる地域やその時の状況、人によって方法は異なります。普段からどう行動するか決めておきましょう。

■ 立退き避難

- ・市町村が指定した避難所・避難場所
- ・安全な親戚・知人宅
- ・安全なホテル・旅館
(通常の宿泊料が必要です。浸水想定区域図で安全かどうかを確認し、予約しましょう)



■ 屋内安全確保

浸水想定区域図で自宅にいても大丈夫か確認する必要があります。

- ・家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていないこと
- ・浸水深より居室が高いこと
- ・水が引くまで我慢でき、水・食料などの備えが十分にあること



■ 緊急安全確保

「立退き避難」を行う必要がある居住者等が、適切なタイミングで避難をしなかった等により避難し遅れたために、災害が発生・切迫し、立退き避難を安全にできない状況に至ってしまった場合に、立退き避難から行動を変容し、命の危険から身の安全を可能な限り確保するため、その時点でいる場所よりも相対的に安全である場所へ直ちに移動等することが「緊急安全確保」です。



避難のポイント

！ 浸水が始まる前に早めの避難を

氾濫水は勢いが強く大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。

！ 状況に応じた避難を

周囲の状況が危険で避難場所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物のできるだけ高い階に避難しましょう。移動途中であっても危険を感じたら近隣の建物へ避難しましょう。

！ 川や用水路に近づかない

降雨が続き不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かず、やむを得ない場合は複数人で行動しましょう。避難の途中も増水した川の近くを通るのは避けましょう。

！ 避難は徒歩で！

車での避難は、緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなるので、徒歩で避難しましょう。

地震対策

地震発生

1~2分

3分

5分

10分 数時間 3日

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する

揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱・靴や厚手のスリッパをはく
- 避難する 屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保
- 隣近所で助け合う
- 行方不明者がいないかの確認
- ケガ人はいないかの確認

出火防止 初期消火

- 消火器を使う
- 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める

テレビ・ラジオなどで正しい情報を

- 気象庁などの情報を確認
- デマにまどわされないように
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう
- 災害・被害情報の収集
- 壊れた家に入らない
- 近くの人の救出・救護

屋内にいた場合

一般住宅

- 揺れを感じたら、机の下などで身の安全を確保する。
- 火の確認はすみやかにする。(ブレーカーやガスの元栓の処置も忘れずに)
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らないようにする。(ガラスの破片などでケガをする)
- しばらく屋外の安全な場所へ避難する。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。火災による炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。(煙などできる限り吸わないように、姿勢を低くし、口をハンカチなどで軽くふさぎ、避難する)

屋外にいた場合

路上

- 窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に停め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオ等で情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。